

1 2学期がスタートして

9月下旬に、3年生が受験する大学入学共通テストの志願票を送りました。刈高祭が終わったタイミングで大学入学共通テストの志願票を送送することが、本格的な受験勉強開始のスイッチになったように感じています。とにかく、健康な状態で受験し、希望する進路が実現することを祈るばかりです。そして、その成功例を下級生に伝え、刈高のよき伝統が続いていくことを切望しています。

3年生は朝早くから夕方遅くまで学習室で必死に学習する姿を目にします。昼休みも学習をしている生徒が増えています。そのような姿は頼もしく感じますし、その背中を見ている後輩たちにも好影響を与えるはずで。

1年生においては、夏休み課題において「ザ・仕事人」というタイトルで、プロフェッショナルとして活躍している人にインタビューを行ったり、自分が将来就きたい職業や学びたい学問を調べるなどして、キャリア形成を行ったと聞いています。文・理・探究系の選択においても真剣に将来のことを考えたと思います。刈高祭も終わって行事がひと段落したので、将来の進路を意識して落ち着いて学習を進め、学習習慣が定着ができることに期待しています。

2 実力テストについて

本校では進路指導部主導で課題・実力テストを4、9、10、1月に行っています。1、2年生の実力テストは10月のみ(他3回は課題テスト)ですが、教員側も生徒の実力が測れるように作問に力を入れて行っています。また、成績個票の返却以外に各教科担当者が記す「講評」を生徒に配付し、厳しくも温かいメッセージを生徒に伝えています。

とりわけ、3年生の9、10月実力テストは、12月に行う進路検討会の貴重なデータとなっています。また、入試で成功を収めた卒業生に関しては、1～3年の10月実力テストの結果との相関を『進路の手びき(17～24ページにあります)』に掲載させてもらっており、後輩たちの貴重な判断材料となっています。したがって、2学期中間考査を終えた2週間後に実施されるという忙しい日程ですが、実力テストをしっかり受験してほしいと思います。

3 令和5年度大学入試(現3年生が受験)環境

予備校等が主催する大学入試研究会にいくつか参加しました。そこで伝えられていた「令和4年度入試からみえたこと」、「令和5年度入試へ向けてのポイント」を右上の枠内にまとめました。

現在の保護者の方々の世代が大学入試を経験した1990年代前半が最も厳しい入試環境だったそうです。現在の大学入試環境については、最も競争が緩和された状況と言えます。ここ数年の間に「大学全入時代」が到来するといわれています。「第一希望を最後まで貫かせる」ということを進路指導部方針として掲げていますが、第一希望を大事にし、進路希望の実現のために必要な情報等を知らせ、サポートしていきます。

4 1年生後半の進路意識

今後の進路行事として、10月下旬に実力テスト、11月と1月に模試を受験します。テストが続いて忙しいとは思いますが、自分の立ち位置や得意不得意を把握する機会でもあります。本校卒業生の模試や入試結果から、難関大学合格者の特徴が2つ浮かび上がりました。1つめは「1年7月の模試と比べて11月の模試の成績が上がる(下がらない)」ということです。夏休み、刈高祭を経て、落ち着いて学習できる2学期に学習習慣が定着することが重要です。2つめは「1年後半から2年前半で学習の型が崩れない」

ということです。1年生であと2回受験する模試を、復習を含めて有効に活用できるように伝えていきたいと考えています。また、いわゆる「中だるみ」は1年生3学期から始まるともいわれます。安定した学習習慣の定着が急務です。

難関大学の合格の秘訣として「2年生のうちに国数英の基礎が固まっていることが重要」ということもよく言われます。9月に行われた生活実態調査の結果をみると、数学を中心に国数英3教科を重点的に学習していることがわかります。この調子で主要3教科をバランスよく学習することが希望する進路の実現への近道になります。

○令和4年度入試からみえたこと

- ・受験生が大幅難化した大学入学共通テストでは大きな差がつかず、個別試験勝負だと気づき、強い出願が目立った。
- ・初志貫徹率(第一希望そのまま受験)が高かった。
- ・国立大学において、5年前に比べて入学定員は変わらないのに、志願者が1割減少した。既卒生も減少して競争が緩和された。

○令和5年度入試のポイント

- ・強い既卒生が少なく、現役生に追い風の入試。全国的に志望が控えめ。
- ・大学入学共通テストで高得点が取れた人は、二次力(記述力)があった人といえる。本物の学力を培うことが大事。
- ・「行けそうな大学」ではなく、「行きたい大学」を目指す。大学全入時代の到来。

5 令和7年度入試について

現1年生が受験する令和7年度入試について、今年度に入ってから重要な情報が発表されています。主な大学から発表された「大学入学共通テスト」についての情報を表1に示しました。この表は9月に発行した生徒向け進路通信『質実剛健』にも記載しました。特に慌てる必要はありません。いま受けている授業や補習を大切にすることには変わりありません。大学ごとの個別試験については、情報がまとまり次第紹介したいと思います(名古屋大学に関しては今年度中に公表されます)。

(文責 進路指導主事 岩崎 達哉)

表1 令和7年度 大学入学共通テスト利用教科・科目一覧

*東京大、名古屋大、大阪大など。

教科	グループ	科目
国語		『国語』
地理歴史		『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合、地理探究』
公民		『公共、倫理』、『公共、政治・経済』
数学	①	『数学Ⅰ・数学A』
	②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』
理科		『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』
		『物理』、『化学』、『生物』、『地学』
外国語		『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』
情報		『情報Ⅰ』

参考資料

河合塾、駿台予備学校、ベネッセコーポレーション、文部科学省各種資料